

授業改善書

科目名	社会学 I
担当者	中村 牧子

授業の概要

社会学の入門編として、社会学の基礎概念、社会学的なものの考え方を学ぶ授業である。各回にプリントを配布し、データや新聞記事、聞き取り資料などを読み取りながら、現代日本社会のなかの身近な現象について考える。今年度は異文化間コミュニケーションの難しさ、流言の社会的影響、未婚化と少子化、子どもの虐待など、コミュニケーションおよび家族に関する諸問題を取り上げた。授業末には各人の理解を確認し深めるため、課題を示して意見や感想など簡単なコメントを書いてもらっている。

授業の問題点

学生の学習態度については、出席しノートを取るまではよいが、それだけに留まり、自主的にさらに学んだり発言したりする姿勢はやや乏しいようである。授業内容については、ほぼ関心が持っており、テキスト資料もうまく利用できていたようである。授業方法については、板書や授業の分量、スピード等ではほぼ満足されているようだが、学生からの質問・発言に対応したかについてはややスコアが低い。授業全体については、おおむね満足できていたようである。ここから問題点を挙げるとすれば、学生の自主的学習や質問・発言を引き出す方向付けが不十分ということになる。

授業改善の課題・方策

学生の自主的学習については、毎回配布する資料の読み直し、次回使用の場合は予習的な読み込みを課題としているが、それ以上に自分で参考文献を探し読書する、調べるといった行動が取れていないのかもしれない。文献については、その内容についても折々に話題にするなど、より関心の持てる紹介法を取ることが対策となろう。また時には、文献を読んだ結果を授業末のミニレポートに反映させてもらうことなども、対策として考えられる。学生からの質問についての項目については、質問に答えていないというよりも、そもそも質問をする学生に限られているというのが事実である。質問・発言する学生は各クラス数名おり、そういう人たちは繰り返し熱心に話しに来てくれるが、他の学生は授業内容についての質問を持ってくることがほとんどない。学生の身近な話題であるほど発言は増えるので、授業のテーマも、より発言しやすいものを多く持つてくるといった工夫が、対策として考えられるだろう。

その他